

今日を生きるという幸せ

一宮市立北部中学校三年

おちあい そえ
落合奏重

今日私は、何度「ありがとう」と言葉に出
来たかな――

私は小学生のころ、世界にはもう戦争はな
いのだと、争いは言葉で解決するのだと、そ
う心の底から信じていました。だから二〇二
二年に、ロシアのウクライナ侵攻が始まった
時は、連日テレビから流れてくる映像を見て、
これは本当に今起きている現実なのだろうか

と、大きな衝撃を受けたことを憶えています。
家族や友人を失った人たちや、ライフライ
ンが破壊されて、寒くて薄暗い地下室で生活
するしかない子どもたち。学校に行くことも、
外の空気を吸うことも出来ず、ひたすらスト
レスにさらされる毎日。ミサイルで崩れ落ち
ていく病院の壁。報道されるウクライナの現
状はどれも、およそ人間が生きる場所とは思
えないものばかりでした。

世界はまだ、全然平和なんかじゃなかった。

そのショックは、私にいくつかの変化をもたらしました。一つは音です。今までは平気だったはずのいくつかの音に、私は恐怖を感じるようになってきました。たとえば飛行機の音。少し前までは、空を真っすぐに横切る、線対称の美しい機体を見上げるのが好きだった私の耳に、そのエンジン音は、いつの間にか不安を大きくかき立てるものになっていました。それから携帯電話の音も同じです。誰かからの着信や通知の音が鳴る度に、何の緊急速報

だろうか、胸がざわつくようになってきました。なるべく大きな音から遠ざかりたい。不意に聞こえる音を避けるために、ノイズキャンセリングイヤホンが欲しい。気がつく、家で一人でいる時には、ヘッドホンで耳を覆っていることが多くなっていました。自分がこんなふうになるなんて、数年前には想像もしていないことでした。

二つ目は「ありがとう」という感謝の言葉です。今日生きていることそのものを、意識

せず、にいられること。好きなおかず、嫌いなおかず、と、食べものに我がままを言えること。つまり、ないことで、家族や友達と喧嘩で
きること。そうした何でもないことが、どれ
だけあたたかくて、幸せなことか。ありがた
いと思うこともなく過ごせる毎日が、どれだ
けかけがえのない時間であるか。それを出
るだけ言葉にして「ありがとう」と伝えてい
きたいと思うようになりました。

今日私は、何度「ありがとう」と言葉に出
来たかな。そう毎日考えます。言葉はきつと
繋がっていくと思うから。人と人を結ぶ始ま
りで、また未来への道標を良くも悪くも変え
ていくもの。だから私は、悪い言葉はなるべ
く使わないようにしたいです。それが平和へ
の一步になると信じて。